

論文番号 102

担当

国税庁 醸造研究所

題名(原題/訳)

清酒、および副産物中のアンギオテンシン変換酵素阻害物質

執筆者

斎藤義幸、中村圭子、川戸章嗣、今安聡

掲載誌(番号又は発行年月日)

農化 66(7) 1081-1087, 1992

キーワード

高血圧症 清酒 酒粕 米糠

要旨

血圧症の原因のなかの大部分を占める本態性高血圧症の原因のなかで、レニン・アンギオテンシン系は重要な因子であると考えられている。このアンギオテンシン変換酵素(ACE)を阻害すれば、血管壁平滑筋が拡張し血圧の降下が可能となる。

そこで、酒粕を市販の食品用酵素剤で分解し、得られた分解液のACE阻害活性を測定したところ、大部分の酵素剤でかなり強い阻害を示した。また、酒粕中には熱水抽出や、ごく短時間の酵素処理でも強い阻害活性が認められた。

また、酒粕及び清酒中より種々のクロマトグラフィーによりACE阻害物質を精製し、IYVPRY, RF, FWN, YGGY, HY, VYという配列であることを確認した。さらに、米糠よりACE阻害物質を精製し、それがフィチンであることを確認した。